

生活科による「問題解決の力」につながる実践  
第1学年 生活科単元「たのしい あき いっぱい」

唐津市立長松小学校 永田 千晶

1 本研究の主張点

本単元では、秋の校庭や公園で見つけた秋の葉や木の実などを使っておもちゃをつくる活動である。本時では、自分たちで作ったおもちゃで遊ぶなかで、おもちゃの欠点や問題に気づき、より良いものを作りなおす活動を実践した。これは、理科の問題解決の力の「観察・実験→結果の整理→考察（修正）」につながるものだと考える。事前に、友だちのおもちゃの良いところやもっと楽しく遊べるようにするための工夫を考えて遊ぶように子どもたちに伝え、遊んだ感想を交流させることでおもちゃの欠点や問題への気づきを促したい。また、気づいた欠点や問題の理由に目を向けさせることで、それらを解決し、より良いものするためにはどうすればよいか考えさせたい。

2 単元計画（全12時間）

次	時	主な活動内容
1	1	秋について知っていること（生き物、食べ物、遊び等）を出し合う。
	2・3	校庭や公園などで、動物や植物の様子を観察したり、秋の葉や木の実などを集めたりする。
	4	見つけた秋を話し合い、絵と文を記録カードにかく。
2	5	秋の葉や木の実を使ってどんなおもちゃを作るか、教科書や資料をもとに考え、計画（設計図・材料・作り方）を立てる。
	6・7・8	グループに分かれ、秋の葉や木の実を生かしたおもちゃを作る。
	9・10 (本時)	作ったおもちゃで友だちと一緒に遊び合い、もっと楽しく遊べるように遊び方を工夫したり、おもちゃを改良したりする。
	11・12	おもちゃ祭りを開き、他の学級の児童や2年生におもちゃで遊んでもらう。活動を通して気づいたことやがんばったことを振り返り、伝え合う。

3. 本時の目標

作ったおもちゃで友だちと遊びながら、もっと楽しく遊べるように遊び方を工夫したり、おもちゃを改良したりしている。(思考・表現)

4. 授業の実際（9・10／12）

児童の学習活動や主な反応	具体的指導及び留意点
1 学習活動を知る。 ・作ったおもちゃ（さかなつり・的入れ・けん玉、どんぐりごま・たいこ）で遊び合う。 ・もっと楽しく遊べるようにするためにどうすればよいか考える。	・もっと楽しく遊べるようにするために、遊び方を工夫したりおもちゃを作り直したりしないでよいか考えながら遊ぶように伝える。
つくったおもちゃで あそび、もっとたのしくあそぶための くふうを しよう。	

2. 作ったおもちゃで遊び合う。



- ・事前に、友だちのおもちゃの良いところやもっと楽しく遊べるようにするための工夫を考えて遊ぶように子どもたちに視点を与える。
- ・児童のつぶやきに対し、遊び方の工夫やおもちゃの改良につながるような声かけや支援を行う。
- ・教師の押しつけにならないように配慮する。

**的入れグループ**

なかなか まつぼっくりが 穴に 入らないな。  
どうしてだろう。

3. 感想を交流する。

けんだまグループは、おもちゃにレベル  
があっておもしろかったよ。

- ・他のグループのおもちゃで遊んだ感想を交流することで、自分たちの遊び方の工夫やおもちゃの改良に気付かせる。また、次の活動の意欲を高めさせる。

4. 遊び方を変えたり、おもちゃを改良したりする。



**魚釣りグループ**

オナモミで釣るのは難しいな。オナモミ  
を他のものに変えて、簡単に釣れるように  
作ってみよう。  
2年生が磁石とクリップで作っていたな。

5. 学習のふりかえりをする。

## 5 考察

子どもたちのこれまでの活動で、作ったもので遊んだ後、それを修正するという経験はほとんどなかった。今回、友だちとの交流の中で、問題に気づいたり、疑問をもったり、問題を解決しようとする姿が見られた。修正の場面では、2年生が作ったおもちゃで遊んだときのことを思い出し真似をしたり、材料の長さや大きさを変えたりするなど、考えながら活動していた。

学習の積み重ねがまだ浅く、経験や知識が少ない学年であるが、これまでの生活経験や知識をもとに考え、活動していた。生活科においても、今回のような学習を積み重ねていくことで、今後の理科学習へとつながっていけばよいと考える。